

豊かなスポーツライフを実現する 資質・能力をどのように評価していくか



ポイント① ICTの活用場面を適切に設定する

「思考力、判断力、表現力等」を高めるためには、「知識及び技能」を活用して課題を発見し、課題を解決するための学習場面を設定することが必要です。課題を発見し、課題を解決するための手立ての一つとして、ICTの活用が考えられます。「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連付けて指導し、ICTを活用して課題を発見する姿や、課題の解決方法について考えを出している姿を評価していきます。なお、ICTを活用する際は、「どの場面で、どんな目的で、何を撮るのか」を事前に明確にしておくことが重要です。また、課題を解決するためには、その手がかりとなる「知識及び技能」を身に付けていく必要もあります。

実践事例では、球技（ネット型）の単元で、「空いている場所を確認して打つ」という学習目標に対して、自分たちがどのような動きをしていたのか課題を発見するためにICTを活用した事例を紹介しています。

ポイント② 生活と関連付けて思考・判断している姿を評価する

保健分野においては、これまでに学習した内容を課題の解決に適用したり、応用したりして、考えたことを他者に伝える学習場面を設定することで「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ります。また、評価規準には、「課題発見」と「課題解決」、「表現」に関する内容を盛り込む必要があり、生徒が思考・判断・表現する場면을効果的に設定した上で、指導・評価することが求められます。

実践事例では、感染症の予防の単元で、学習したことを基に、実生活を例にした学習課題の中で、根拠を立てて適切な予防方法を選択している姿を評価した事例を紹介しています。

ポイント③ 運動を継続して行う姿を評価する

「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体を通して総合的に評価することが求められています。新学習指導要領では、体育分野において、「各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通事項とし、公正、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している」とされています。とりわけ、「場や用具の安全に気を付ける」ことは、単元の始めに必ず指導し、評価できるようにすることが大切です。しかし、保健分野にはこの観点についての内容の記載がありません。そのため、保健分野の目標である「生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う」と示している部分を評価の参考にします。なお、指導と評価を一体的に進めるに当たっては、授業を通して「知識」を身に付けさせ、生徒自身の積極性や自主性を促し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ることに留意して評価することが大切です。

実践事例では、器械運動（マット運動）の単元で、体育理論で学習した内容から、「主体的に学習に取り組む態度」について自己評価ができるように観察や学習カードを通して評価した事例を紹介しています。

3学年

球技：ネット型（バドミントン）

保健体育科実践事例

「知識及び技能」と関連付けて課題を発見したり解決したりするために、ICT 機器を活用した授業実践。

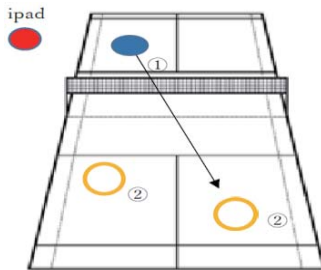
単元の評価規準（一部抜粋）

| 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|----------------------------|
| ○知識 ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。 ③ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ、繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることについて具体例を挙げている。 | ○技能 ③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ④ラリーの中で、味方の動きに合わせてコートの空いている場所をカバーすることができる。 | ②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 | ③作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 |

ここには、評価規準の一部を載せてあります。学習指導要領解説の例示を基に評価規準を作成します。

指導と評価の計画（一部抜粋）

| | 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
|-----|---|--|
| はじめ | 1 ランニング，準備体操（10種類） 2 本時の学習の確認 | ・本時の学習内容を伝えるとともに、前時の学習カードを見て、課題や質問について確認させる。 |
| なか | 3 シャトルを遠くまで跳ばず練習 ・ハイクリアーのラリー（2人組） 4 空いている場所を確認して攻撃するための練習 ・2対1の練習（3分×3セット） | ◎【観察評価】を行う。 ◎練習の際に、生徒の具体的な学びの姿から、実現状況を判断する。 |



注意

ICTの使用については、使用目的や方法について指導が必要。映像を撮る位置や向きが変わるだけでその後の活用も変わってしまう。

授業改善のポイント

①本題材では、まず球技について第3学年での指導事項を示した。年間指導計画から実施時期や配当時間等を踏まえ、指導事項を配置した。そこから、該当単元（球技：ネット型）の評価規準を設定した。単元の評価規準を基に学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にした。

重要!

○「単元の評価規準」をしっかりと作成することで資質・能力の育成へとつながる。

②思考力、判断力、表現力等とは、学習指導要領に「各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用したり、応用したりして、他者に伝えることである」と示されている。そのため、生徒が思考し、判断することができるようにするための知識や技能を検討するとともに、活用させる場面の設定やどのような活動をさせるのかについて具体化することが求められる。保健体育科におけるICTの活用については、「何のために、いつ、どこから、何を撮るのか」など具体的な活用方法を指導することで「知識」を活用した学習活動となる。

← **ポイント 1**

